



武南高等学校進路通信 第2号

進路指導部

模擬試験を活用して合格をつかめ

「学力到達度を知る」 今は判定を気にし過ぎない。第一志望を変えない。

模擬試験を受験する目的の1つは、志望校の合格可能性を知ることです。模試ではAやB判定でありながら不合格になる人もいれば、その逆の人もいます。合格可能性は気にし過ぎないことが大切です。現役生は試験当日まで学力が伸びます。今回E判定だからといって、あきらめてしまうのは愚かなことです。入試の当日に合格最低点以上がとれれば良いのです。この合格最低点は各大学がHPや大学案内、赤本で発表している場合が多いです。大学にもよりますが、その得点は6割前後が多いようです。誰もができる基礎基本問題を確実に得点し、皆ができない難問は深追いせず、可否を決める問題に全力で取り掛かることです。

ちなみに、今年の入試では国公立の後期試験で5名の合格者ができました。そのうち3名はE判定からの逆転合格でした。合格者について振り返ると部活動等で受験に向けてあまり多く時間が取れず2月の私立国立入試では実力を発揮できなかったようです。3月12日の後期試験では十分な準備ができていました。卒業式前後も放課後の教室で学ぶ姿が見られました。後期試験を受験したいずれの生徒も出願しておいて良かったと言っていました。

「弱点を知る」 すぐに自己採点し弱点を補強、学習計画を再検討する。

模試の後にはすぐに自己採点をし、解説を読んでください。入試で必要とされるポイントがたくさんあるはずです。また、返却された答案をみると、記述式であれば意外なところで減点されていることがあります。客観的に、どの分野が弱点で、その克服のため何をすべきかをきちんと把握することが大切です。模試を受けるたびに弱点を補強することこそ、合格への最短ルートです。(復習・弱点補強は基礎・基本ができていない生徒ほど多く時間がかかります。かなり苦勞する取り組みとなります。多くの生徒にとって、基礎基本の完成が夏期休暇中までのPOINTでもあります。)

「年内に推薦入試等を受験する生徒も要注意」

近年、推薦・総合型などの入試において基礎学力を問われる場面が増えています。この点から見ても、模擬試験で弱点を確認し補強することは大切です。何事も全力で取り組みましょう。

復習の手順

手順① 模擬試験受験当日に自己採点をする。

模試の時点の学力を把握し、入試当日に必要な学力との差を把握する。現時点での学力、苦手分野を分析し、明日以降の学習方法を立て直すのです。（偶然、正解になった問題を見落とさないこと。）勉強方法を客観的に見つめなおし計画を修正することはとても大切です。現役生は1ヶ月で大きく学力を伸ばせます。結果返却時では遅すぎます。受験直後の採点・復習は欠かせません。（学習が進んでいないなどの理由で模試を受験していないことは客観的な自己分析ができず大きな出遅れになります。）

手順② 模擬試験返却時に再度、復習をする。

記憶に残す意味でも繰り返しの復習は大切です。弱点を集めたノートを作成しよう。

手順③ 今後受験する模擬試験の前日および当日

定期的に復習をすることはとても大切です。単純な記憶は6時間後に半分になると言われています。復習の機会を定期的に設けましょう。（自己管理です。）

自己採点は別の視点からも大切です。特にマーク式試験では、その正確さが問われます。大学入試共通テストはマーク型の試験です。共通テスト翌日に武南高校で自己採点を行ってから、その結果を各予備校に提出します。そこで国公立大学や私大の判定が行われます。（今から徹底する。）

「試験に慣れる」 上手な時間配分を探る。

試験場の雰囲気の中で、時間内に問題を解くことに慣れる必要があります。問題用紙が配付されら全体に目を通して、問題の着手順とおおよその時間配分を考えてから解くようにしてください。模試の中で感覚として身につけるとよいでしょう。復習時には時間不足の原因を探りましょう。

学習サイクル「予習 → 授業 → 宿題、復習」

英数国の主要3教科は、特にこのスタイルがとても重要になってきます。「予習」「授業」「宿題・復習」のそれぞれの意味について触れておきます。

予習 → これから授業で習う分野の準備

- ・英語や古文の本文を訳しておく。（当然、単語や熟語を予想ののち調べる）
- ・数学の教科書の例題・練習を解にならって解いておく。（それを学ぶのに必要な既習事項を復習しておく）

授業 → 準備してきたものと照らし合わせながら聞く。

- ・板書事項以外のことであっても「ここは重要だ」と思われるところをメモする習慣をつける。
- ・板書をただ写すだけでなく、内容を考えながら写す。（このときに予習が役に立つ。）

復習 → 授業で習ったことを忘れないうちに、とことん振り返る。

- ・出された宿題に取り組む。
ただ提出することだけを目標にするのではなく、授業で習ったことを振り返りながら取り組む。「どういった主旨でこの課題が出されたのか」を意識して。
- ・出された宿題以外に、授業で扱った問題の類題を探して解いてみる。